



食の安全「基本のお話」

— 第78回 —

ドキュメンタリー映画「FOOD EVOLUTION」の オンライン上映会を前に

上映会 12月5日(土) 14:00~16:10【ライブ配信】※参加申し込みはアピエ11月号から

この映画は、遺伝子組換え作物にかかわるさまざまな立場の人や多様な現場に密着したドキュメンタリー映画です。
反対派はどんなことを主張しているのか。それに対して科学者はどう反論しているのか。今回、映画に登場する3人を紹介します。



ジェフリー・スミス氏

遺伝子組換え作物反対運動において最も発言力がある活動家のひとり。
自費出版した「遺伝子組み換えルーレット」は2012年に映画化されており、「遺伝子組換え作物で※実害(甲状腺がん、アレルギー、糖尿病、自閉症、不妊、出生障害)が出ている」と主張しています。



マーク・ライナス氏

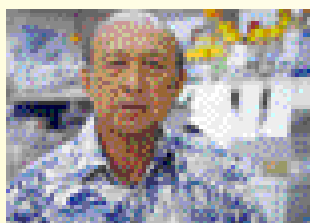
英国の著名な環境保護運動家で、「+6°C」「Nuclear2.0: Why a Green Future Needs Nuclear Power」などの環境に関する本の著者。

ライナス氏は当初、欧州で遺伝子組換え作物反対のキャンペーンを主導していましたが、2013年のオックスフォード農業会議でこれまでの反遺伝子組換え運動を謝罪し、組換え技術は持続可能な農業に重要という講演を行いました。

～ライナス氏のスピーチの冒頭～

- まず、過去数年にわたって遺伝子組換え作物を誹謗する行動をとってきたことについて、謝罪したいと思います。
環境保護家として、また、世界の一人一人が健康的で栄養に富んだ食事を摂る権利があると信じる者の一人として、心から後悔しています。
- 何が私の信念を変え、謝罪するにいたらしめたのか。その答えは単純です、私は『科学』を発見したのです。私は、このような経験を通じ、より良い環境保護運動家になることができた、と思っています。

バイオテック情報普及会のホームページから抜粋



デニス・ゴンザルベス博士

ハワイ生まれの分子生物学者。

1990年代、ハワイのパパイア農業はウイルスによる病害で一時全滅の危機に陥りました。それを救ったのが、ゴンザルベス博士が開発した遺伝子組換えパパイア「レインボーパパイア」でした。しかし、開発当初、反対派は「組換え作物を食べるとエイズになる※」などと訴え、議会での承認を阻止しようとしします。

※現在、遺伝子組換え食品による健康被害や子孫への影響の報告例はありません。遺伝子組換え食品が実用化されて20年以上たちますが、認可後に問題となり、認可が取り消された品種はありません。

映画の予告編はコチラから → 映画「FOOD EVOLUTION」ファンサイト

